


## 平成23年度 医動物・種類同定検査のまとめ(4～6月)

医動物担当では、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成23年4月から6月の種類同定検査件数は、5件でした。内訳は昆虫類3件(ハエ目・シロアリ目・トビムシ目各1件)、その他2件でした。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
マンション入り口部分にみられた	 成虫、黒色、約7mm	ヒメイエバエ (ハエ目イエバエ科)	ヒメイエバエは早春から出現し、家の中で輪を描くように飛び回る。幼虫は動植物の腐敗物、家畜の糞、生ごみ、漬物、油粕などあらゆるものから発生する。日本広く分布し、代表的な屋内性のハエである。
戸建住宅の2階床で発見した	 有翅虫、黒色、約6mm	ヤマトシロアリの有翅虫* (シロアリ目ミゾガシラシロアリ科)	ヤマトシロアリは塊状の巣は作らず、食害箇所が巣となる。乾燥に弱く、常に湿った木材など多湿な場所を好む。有翅虫の群飛は、4月から5月頃にみられる。日本に広く分布する。
フローリングの部屋に虫がみられる	 成虫、灰褐色、約2mm	トビムシ目の一種 (トビムシ目)	トビムシ目の多くは土壌の表面、落ち葉中に生息する。雑食性であり、落ち葉や腐植物、菌類などを食べる。一般に繁殖力が高く、好適条件下で大量発生することがある。
2階水洗トイレで発見した	 半透明、約35mm	ミズ網の一種 (貧毛綱)	ミズ網の体は、多数の規則正しい環状の体節からなり、体表に短い剛毛がみられる。陸生種、水生種に大別される。日本ではシマミズが代表的な陸生種で、ゴミ捨て場、堆肥の近くや台所の流し付近の湿った場所に住む。
2階ベランダや天井裏に糞がみられる	 糞、黒色、約8～13mm	コウモリの糞	コウモリの糞の形態は、らせん状である。糞の内部には多数の昆虫片が認められた。

\* 写真は、群飛後に翅を落とした個体です。またシロアリの有翅虫と羽アリ(ハチ目)の見分け方について、検査情報月報 平成22年7月号P2に解説が掲載されています。

【 検査研究課 医動物担当 】